

# 幼稚園になれない

## 子どもの研究



(東京)・阿部幼稚園

(静岡)・静岡精華幼稚園

(東京)・洗足幼稚園

(東京)・文京第一幼稚園

(東京)・松江幼稚園

(長野)・松本幼稚園

毎年四月の始めには、幼稚園

になれないで困る子どもがど

この幼稚園にも必ずいるものです。ここに載せたのは、阿部幼稚園、静岡精華幼稚園、洗足幼稚園、文京第一幼稚園、松江幼稚園、松本幼稚園から、本年の一学期に、幼稚園になれない子どもがどの位いるか、また個々の事例の研究を送っていただいたものです。読者の身边にも同じような子どもがいることでしょう。

一、幼稚園になれない子供がどの位いるか。

(次頁の表参照)

### 備考

- 1 幼稚園に慣れるまで五週間以上かかったと云う項目の中には、五月末現在即ち入園後約七週間乃至八週間たつてもまだすっかり慣れていないもの、途中から休園したのも含まれている。
- 2 総計について松江幼稚園の在籍総数が不明なため計算上はふいてあるので松江幼稚園の数も加えたものがカッコ内に入れている。

以上の結果、幼稚園の資料は少ないが、何らかの意味において幼稚園生活に慣れるまでに時間がかかったものは各幼稚園四〇%内外で一致している。なお、性別、保育年別の差はどちらも大きなひらきはない様である。強いて云えば男児の方が女兒より、一年保育の方が二年保育よりやや幼稚園に慣れにくいと云うことが出来る。

では幼稚園に慣れない幼児のケースとその指導法を具体的な例から見て行こう。

## 二、具体例と指導方法

### 1 母親や他の附添から離れないもの

その一 母親から離れない例(阿部幼稚園)

四才四ヶ月の女兒 八百屋業の父母と六人姉弟の家族。家が多忙なので何でも子供の云う通りになっている。従って我儘であり、気に入らない事があると長泣きして困らせる。一週間位門を入るのをいやがり、門まで送って下さるお母様から離れなくて困った。庭に入っても仲々部屋に入ろうとしない。反抗的で素直に仕事等をやろうとしない。

**指導法** (1)母親と離れない時は先生が抱いてお話等して気をまぎらせているうちに母親に素早く帰って頂くようにお願いした。(2)母親の送って下さる距離を順次短くして下さる様お願いした。(3)姉が年長組に来ているので二人で登園する様姉にも話し、家の方にも協力して頂いた。(4)姉と二人で登園した時には大いにほめてやり自信をもたせた。(5)消極的な性質なので遊びに常に誘導して、園の楽しさを解らせる様に努力した。その結果、現在では喜んで登園し、「お早ようございませす」の挨拶も元氣に出来る様になった。

### その二 攻撃的な子供(松江幼稚園)

六才の男児 家族

は両親と三人。強情なところがある一面小さい子供にはやさしい。父の云うことはよく聞く。

一週間は母親から離れようとせず、保育室に一人で入れるとげとぼす、ぶつ、「バカヤロー」の連発、少しでも早く親から離れさせようと頑張ったがだめだった。  
**指導法** 泣いているこの子供は何を要求しているか、それを見出しその要求を充ててあげること。心理療法の根本から出発しようとした。

同右の %	慣れない 子供 の 数 在 籍 数	五週間以上		五週間		三週間		二週間		一週間		二三日		最初から 平均		慣れた 期間		幼稚園名
		女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	性 別 年 保 育		
30	$\frac{20}{66}$	1			2			2	1	2	2	4	4	25	21	I		松
47	$\frac{29}{62}$				1	1		3	4	2	2	8	8	18	15	II		本
15	$\frac{5}{84}$							1		1	1	1	1	19	10	I		精
46	$\frac{21}{46}$							4	2		1	8	6	13	12	II		華
93	$\frac{14}{15}$				2	2		1	3	2	4				1	I		阿
20	$\frac{3}{23}$				1	1				1				20		II		部
		2	3			1			2		3	3	3	?	?	I		松
			2						2	1	1	2	1			II		江
37	$\frac{26}{71}$					3		3		5		15		50				文 京
40	$\frac{55}{138}$					2				14		39		83				洗 足
38	$\frac{173}{466}$	1 (8)		2		15 (16)		24 (28)		37 (42)		94 (103)		287				総 計

ある日家に帰ると云い出したので、「このお仕事が終ったら送って行ってあげるから一緒に手伝ってね。」と持ちかけると元気で手伝った。そして帰途、急にいろいろと話し出し、二日目も同じように送り返してやった所、いっかすっかり慣れてしまった。

その三 泣いて親から離れない例（洗足幼稚園）

五年三月月の女兒 会社員の父と母、姉の四人家族。家で特に甘やかしている様ではないが、依頼心が強く、母親がそばにいたり近くのお友達が自分を引き立てている様な時でなければ話もしない。積極的に遊びを見つけたり、自分から友達を誘う事はなく、いつも二三の友達の後を追っている。

入園二週間迄絶対に母親から離れない。母親が帰ろうとすると大声で泣き床に坐り込んでしまう。無理に母親から離すと、大声で泣き叫んで保育室の空気を破ったが、三週間目で漸く母親から離れて遊ぶ様になった。

指導法 安定感を持つように、どこにいても目を離さないで気を付けていた。家の近くのお友達と行動をとものにさせ、女兒のグループ遊びに誘って、幼稚園の楽しさを理解させ

るように仕向けた。幼稚園の遊具や小鳥や亀などに注意を向けさせ、家を忘れて遊びに入っていくようにした。気分が落ち着いている時に、幼稚園は先生とお友達と遊ぶ所であり、自分もその一員であることを理解させるよう努力した。あまり泣かなかった日はほめてやって、母親にもほめてもらうようにした。

右の例と同じようなものが文京第一幼稚園と松江幼稚園に一つずつあった。松江幼稚園は四才の男子で、前例と同様附添と全然離れず、無理にひき離すと数時間泣きわめいたり用便をもらしたりする。これは五月末現在まで祖母がたつての希望で附添って来ている。

この場合も子供が小さな昆虫が好きだと云うことを親から聞き、てんとう虫やおたまじゃくしを取って来てもらい、それを一緒に飼って見た。先生に対する近親感を増したものが、かなり快活になり、頼って来るようになった。

その四 積極的な行動と消極的なものが交互

に現れる例（精華幼稚園）

四才六ヶ月の男児M 祖父母、父母、妹（満一才）の六人家族と使用人五人。主に祖母、母に養育され、Mの要求は何でも通してもら

える。

入園式の記念撮影をいやがって泣き母から離れない。その後一週間位自分の好きな行動をとって面白がる。例えば友達を何となくぶつたり、一寸髪を引っばつたり、机の上をどび廻つたり、オルガンをならしたり、部屋の飾りをとってしまつたり等である。それから十日間は門前で母の手をしっかりと握りしめ、どうしても離れないで泣きわめく。又その際「時計がどこへ行ったら終りになる」「お母ちゃんが終りまで僕の横にいてくれないといや」「あと幾つ寝たらお休みになる」等の神経質な言葉を吐く。その後前の二つの状態を四日間ずつくり返した。ここで指導法の問題としてとり上げたのは主に後の状態である。

指導法 (1)先生から話しかけて仲良くする機会を作った事。最初にこの状態になった時母から無理矢理に離し、保育室までつれて来て、「M君、このお部屋に涙がいっぱいになるまで泣いて御覧」と言うと急に不思議そうな顔をして泣きやみ、眼をパッチリと開けて、

「みんな、ぐしゃぐしゃになっちゃう、先生も」とそれだけ言ううと笑いかけた。その時のまだ何か言いたげな顔つきから、Mは話しか

けて見れば、先生にも又園にも親しみを持つ  
様に感じた為、その後四日目までこの様な方  
法をとった。その結果Mは話題が非常に豊富  
である事がわかった。(2)Mが興味を持って  
いる様な話題を見つけて話しかけた。例えば  
「僕象さん知っている？」と聞くと「お父ち  
ゃんと動物園で大きいのも小さいのも見  
た。そいで海象も見た。大蟻食いも」と次から次  
へと話し出す、時には絵本を用意して一緒に  
見るとMが興味を感じた絵については実によ  
く話す。この様にして泣きやむと同時に傍に  
いる母の存在等無視した様に先生に親しみを  
持つて自分から進んで話しかけて来た。ここ  
でMの話し振りには私達大人に表現すること  
の出来ない程夢が満ち溢れている様に思われ  
た。(3)積木を与えて見た。まだ以前の状態  
が続いている時、母から離れてから「何かつく  
ろうか。」と言うと指をくわえて笑っていた。  
そこで先生の方から何を作る目的もなく積ん  
でいると、「先生、それZ機じゃん、ブルト  
ーザー」等と想像して話しかけ、Mも積木を  
持つようになり、一人で黙って何かこしらえ  
ていた。この様なことをやり始めてから三日  
目からは一人で登園出来る様になった。Mは

知的には優れているが、友達に恐れや不安  
を感じて居るのか、交わる事が出来ない。  
これは入園前の生活歴に原因があると思われ  
る。前記した所まで変化しているMの態度に  
対して、常にお話を丹念に聞いてやると同時  
に、作ったもの、描いたものがどんなもので  
あっても、ほめてやるだけの暖かい心やりを  
持つ様になっている。Mと話題が共通したり、  
活潑さの程度が似ている子供を見つけて遊ば  
せる。そのうちに友達に話す事の喜びを知る  
と同時に誰にも話しかける様になり自然に子  
供の仲間にも導き入れる事が出来るだろう。  
その五 朝だけ親から別られない例(文京  
第一幼稚園)

弁当を持って来る様になってから、少しずつ  
お友達も出来るようになり、幼稚園生活の楽  
しい流れを感じるようになった。  
その六 初めはよかったが友達にいじめられ  
てから親から離れなくなった例(松  
本幼稚園)

四才二ヶ月の女兒 父母、弟、従兄二人、  
使用人数名の商家。母親が忙しい為、主とし  
て使用人Aの手で成長した。Aのこの子供に  
対する愛情が非常に強く、又この子供も母よ  
りもAを慕っている。利己心が強く、一緒に  
住んでいる従兄にも、大人の様な意地悪をす  
る。

入園当時は、はっきりしているが落ち着き  
がなく、となりの友達とおしゃべりが絶えな  
かった。先生に対しては無表情である。十日  
目頃、帰る途中で友達に意地悪されておいて  
きばりにされ、迷子になった。この頃から幼  
稚園でもしばしば泣いて、孤立していること  
が多くなった。迷子になってから一週間目、  
風邪気味の気持わるそうな顔をして、家人に  
背負われて登園した。先生が迎えて手を出さ  
ずと、その手を振り切つて、どうしても離れよ  
うとしない。この日から、毎朝母親か女中に

送られて登園し、離れる時は、先生の手を振り切り、暫く泣いてからあきらめて、いかにもつまらなそうな表情をしており、友達ともあまり遊ばない。この頃から休園が多くなつた。遠足に行つても写真を撮す時に母親から離れずに、背負われたままで撮つたり、男の子にいじめられたと云つてはいつまでも泣きやまなかつたりしたが、五月の下旬から休園している。

指導法 (1) 落ち着きがない時は紙芝居、おはなしなどで注意を集中させるようにする。

(2) 一人の友達とすぐ喧嘩をするので席をかえた。時々、話しかけたり遊びに加つて、先生に近寄れる機会をつくつた。(3) 附添から離れたがらない時は強いて離さないで放つておく。(4) 離れた時には、絵本を読んでやつたり、ままごとあそびに導入したりして、他の友達に近づける。

## 2 先生から離れない例(松本幼稚園)

四才七ヶ月の女児 父母、姉二人、使用人 数名の商家。無口で感受性強く、強情である。

入園当初は母親がそばについていなければ椅子にも腰かけていられない。母親の腕にし

っかりつかまっている。四日目頃、母親に帰つてもらうと、わつと泣き出して後を追う。

姿が見えなくなるとあきらめて、まるで生命の綱の様に先生の手を攪んで離さない。この手を離したらどんな怖ろしいことが待伏せしているかの様に怯えている。どうしても自分の席へ近寄ろうとせず、どんなところへでもついていて離れず、一寸手を離しても、大声で泣いてすがりつく。唱歌、ゆうぎ、絵画製作にも見向きもしない。一週間から十日目位にやつと自分の席に腰かけることが出来たが、

手は握つたまま離さない。この頃から他の組に家の近所の仲良しのお友達が出来て、幼稚園への行き帰りは出来るようになったが、保育室に入るとあわてて表情を固くし、先生の手にすがりつく。二週間目頃から遊戯や絵画製作などに手が出せる様になつたが、それが終ると又あわてて手にすがりつく。四週目に

入る頃始めて経験した粘土遊びに夢中になっている時、そつとそばを離れる。暫くたつて気がついたが泣かないでじつとこらえている。

しかし、となりにいる子供が一寸ついたりすると泣き出して大急ぎで手につかまりに来る。五週間で完全に先生の手から離れた。

指導法 (1) 折にふれて声をかけてやる。

(2) 興味を持ちそうな環境に入れる為、誰もいない部屋で絵本を読んでやつたり、楽器にふれさせたりする。(3) 仲よしのお友達が出来てから、自由遊びの時はなるべくそのお友達と遊ばせる様にし、少しでも長く、大勢の子供達の中にいられる様にし、泣いても放つておいた。(4) 遊びや絵画製作の時に、激励し、自信を持たせる様にした。又何を描いたのか自分から話せるように仕向けた。(5) 終りの頃には泣いてもあまりとり上げないで、

気分を転換させて他へ注意を向けるようにした。その結果グループに加つて一緒に遊べる様になつた。

## 3 友達に頼る子供の例(松本幼稚園)

四才三ヶ月の男児 父母、祖父、兄弟各一人、使用人三名の商家。感受性が強く、でしゃばり、強情、そそっかしい。家庭環境はいが、弟が生まれたため多少フラストレーション気味である。

近所の遊び友達M子と仲よく登園し、椅子を並べて腰かける。何所へ行くにも一緒であり、M子のことをする。五日目頃から一

生懸命頼っているのにM子は女友達と仲よしになって、次第に離れてしまう。それでも必死になってすがりつこうとする。M子の姿が見えなくなるとおどおどして泣き出す。この頃から幼稚園を嫌い、何度も母親がつきまわって来る。口実をつくって休みたがる。四週目頃、隣の席の男児と意気投合して積木などして遊ぶ、やっと子供らしい明るい表情になる。それでもM子の行方を気づかなくて、時々「Mちゃんは？」と小さい声で聞きに来たりする。六週目頃から、すっかり安定感が増して、近所の男の子と元氣よく登園できるようになる。今まで先生にも近寄ろうとしなかったが、遠巻きながら、近づいて来る様になり、又どんな遊びにも加われる。

**指導法** (1)手をつないで友達遊びの中に連れ出し、気分転換させたり、新しい友達がつくれる機会をつくってやった。(2)新しいお友達の出たことを一緒に喜んでやったり、製作図画粘土あそび等の折、褒めて自信をつける。(3)先生とも話が出来る様に、為に、いろいろ用事をつくって話させたり、家庭のことを聞いたりして、自然に親しい話が出来るように仕向けた。

#### 4 グループにうまく入れないもの

その一 一と二に坐り込んで動かない

##### 子供の例(阿部幼稚園)

**五才四ヶ月の男児** 父母、兄姉のサラリーマンの家庭。少々我儘であるが明るい元氣な子でよく喧嘩をする。

自分の場所と一人できめてあるところに坐りこみ、お友達のことをにこにこしながら見ていたり、絵を描いたり本を見たりしている。誘ってもなかなかその場所から離れない。ブランコ、スベリ台にもあまりのらぬ。

##### 指導法

(1)最も興味を持って見ている遊びを見つけてその中に誘い込んだ。(2)出来るだけ彼と話をする機会を待った。彼一人ではなく二、三人の友達を誘ったグループでの話し合いで気持がだんだんほぐれて行った様だった。(3)坐り込んでいても出来る遊びに誘い友達と一緒に遊ばせた。その結果、野球がとても好きらしく野球をするグループにかかわってから急に元氣が出て来て、これをきっかけにお友達の遊びのグループに入れる様になった。今ではじっと坐り込んでいること等殆んどなく活動的で、又よく喧嘩をする。

その二 友達の遊びに入りたいそうで入れない例(阿部幼稚園)

##### 五才五ヶ月の男児

父母、祖母の四大家族で父はサラリーマン。明るく元氣な子供、一寸泣き虫であるが、素直で思いやりがある。

遊びのグループに入りたそうに友達が遊んでいる間をうろろうろしているが入れない。誘って入れてもすぐぼつんとしてしまう。ブランコ、スベリ台にはどんだんのる。

##### 指導法

前例と同様であるが、特に彼が関心を寄せている友達と一緒に坐らせたり、一緒に組んで仕事を頼んだりした。その結果、ママ事ではお父さんの役が出来る様になり、遊ぶ範囲も広く、誰にも好かれる元氣な子どもになったが、少々泣き虫で一寸したことですぐ泣く。一人でぼつんとしている事など殆どなくなった。

その三 自分から遊びに入れられない例(阿部幼稚園)

##### 五才九ヶ月の女児

父母、祖母、姉の五大家族で父はサラリーマン。活潑で男の子の様

なところがある。小さい組の世話や片附がよく出来る。

机の前に坐りほぼづえをついでお友達のす

ることをじろじろみていた事。誘うと遊びに入ってくるが、自分からすすんで入ってくる。気がむくと一人でまりつきをしたり、スベリ台やブランコにも一人である。

**指導法** 子供が興味を持っていそうな遊びに誘い入れたり、二三人の友達グループを作ってやったりすることは前例と同様であるが、特に同じ方へ帰るお友達と一緒に席に坐らせたり、遊びに誘ったりした。最近では、このお友達とも仲が良いが、男の子とも大騒ぎをしてあばれる様になった。

以上阿部幼稚園の三例は何れも慣れるまでに一週間かかっている。

これと類似したケースが同じ阿部幼稚園に四例あった。それらは皆前にあげた三例の組合せの様な型である。

**その四 同年令の子供の遊びが幼稚に見えて**

**一緒に遊べない子供の例（阿部幼稚園）**

**五才五ヶ月の女兒** 父母、祖父母の五人家族で父母共大学教授、祖母が母の役を殆ど果して、母は子供の姉、よき助言者の様な立場である。子供はのびのびしているが気が強いじじいばりのところがある。同年令の友達とうまく遊べないで交友も限られている。

入園するまで同年令の子供とあまり遊ばず大人の中で過して来たのでどうやって遊んでいいのかわからない。遊びたいのだが、どうも友達することが幼稚に見える。それを笑ったところ、友達からなじられびっくりして何となくすくんでしまった様子が見られた。それ以来友達からなまじきだと云われる様になつてしまい、遊びもはげまし、ひき立てて上げないし出来ない。誘えばすぐ入ってくる。

**指導法** (1)彼女を受け入れてくれる友達をさがした。(2)はげまし、力つけて自信を持たせ友達と遊べる様にしむけた。先生が彼女をつれて遊びのグループに加えてもらった。

友達にも彼女のよいところをわかしてもらえよう様努めた。その結果仲の良い友達が出来たが、他の友達とはまだ打ちとけて遊べない。

**その五 意地っ張りな子供の例（文京第一幼稚園）**

**稚園**

**五才の男児** 三人兄弟の中の子。母親は特にこの子供を可愛がっている。父親はきびしく、ことにこの子どもに対して口やかましく躰けるとの事、その為人の顔色を見ながら行動する様になった。

入園式の日、母親に連れられ元気に登園し

た。次の日から保育室に入りたいたい様子は見られるが（かたくなに）廊下へはぱりついて入らない。やっと引っぱる様にして中に入れる。この様な状態が一週間位続いた。音楽や絵画、製作等ただ見ているだけで、自我が強く、喧嘩をしても、自分の方が悪い場合でもあやまって仲良くする様な事が出来ず、口中でぶつぶつ云いながら何時までもおこり、皆と遊べない。

**指導法** 家庭と連絡をとり、日常生活の様子を話し合い、しばらく観察し、あまり細かい事を注意せず、常にその子を中心に引き入れてあそび、少しでも子供達とあそべる様に留意し、常に先生に対して愛情を感じさせる様にし、安定した生活を持てる様に仕向けた。

その反面、集団生活のきまりを知らせ、友達と仲良く生活出来る様に自分の悪かった時はあくまでもそれを知らせ、人に迷惑になる事をはっきりと意識させて幼稚園生活のたのしみを味わる様にした。

**その六 母と早く別れたが全然口をきかない子供の例（文京第一幼稚園）**

**五才三ヶ月の男児** 八人兄弟の末子で双子である。もう一人の方は元気に遊びよくお話

も出来る。家は袋物製造業で多忙であり、手がゆきとどかない様である。父は相当きびしいらしい。

母親とは二日目に別れる事が出来たが、二週間位遊びに入る事が出来なかった。何を聞いても全然口を聞かないで唯黙っているだけであった。

**指導法** 出来るだけ遊びの中に引き入れる様にその子供を中心にした遊びをしたが、いやがって皆と一緒に遊ばずに一人ですみの方から見ている。一週間目頃から幼稚園の雰囲気になれたせいか部屋で絵本を見る様になったが今もって口もきかず、リズム遊びの時も気が向かないと友達と一緒にする事が出来ない、時々隣の友達をつついたりしている。

#### その七 時々泣くだけで何も反応しない子供の例(文京第一幼稚園)

**四才三ヶ月の男児** 父の勤めの関係上、母と弟は静岡に居り、この子だけ一月頃祖母の所に来た。家庭は祖母とばあやと同宿の学生の四人で従って養育は祖母が全部受け持っている。

入園の日は泣きもせず黙って腰かけていたが、名前を呼ばれても返事もしないし、歌

も歌わなかったが、二日目には泣いて大あばれで、主任の先生にあずけ、三日目には、時々泣き出した。この状態が一週間位続いた。

その後お誕生会や五月五日の子供の日があつて皆でお菓子をたべた時にも、全然手をつけずに何を言っても知らん顔をしている。

**指導法** 始めに丁度近所から来ているお友達がいだったので、家庭と連絡して一緒に通園してもらう事にする。この事によって、大分不安定ながらも遠くから皆の遊ぶのを見ている様になった。又家庭のお話を聞いて、それとなく家庭の話を中心に話しかけて、自由遊びに引き入れる事に成功した。そこで二日間遊びの時に丸くなつたりする時に手をつないだり、二人で鬼になつて皆をおいかけたりして、同年令の子供と遊ぶ楽しさを自由遊びを通して知らせる様に努力した。しかしまだ口は一言もきかず、自分の家から持ってくるお弁当は食べるが、幼稚園の給食は全然手をつけない。

#### その八 坐り込んでいてすぐ涙ぐむ子供の例(阿部幼稚園)

**五才一ヶ月の女児** 父母、姉二人の五人家族。内気で泣き虫である。末子の我儘なところがある。

坐りこんでぼんやりしている。殆ど口をきかない。すぐ涙ぐむ。さそつてもあまり遊びに入つて来ないで立って見ている。

**指導法** この子供が興味を持っているものをさがし、それに誘ひ込んで先ずうちとけ合える様にした。仲良しの友達をつくり、その友達と一緒に遊ばせる様にした。子供の方から先生に近づいて来ないので努めて先生の方から接近した。その結果先生とは色々話し合える様になったが、お友達とはやはりあまり口を聞かないし、遊べない。時によると、お友達とつれ立って遊んでいるが一人遊びの方が多い。家でもお母さんのそばにくついている方が多いとかで、全然近所の子供と遊ばないそうである。お母さんのお話では、幼稚園が好きで好きで朝ひきとめておくのに一苦労との事である。自分の入りたい遊びには、先生も来てと先生を誘ひ込む。

同様のケースが阿部幼稚園に五例あつた。

#### 5 自分から何もしない子供の例(阿部)

**四才四ヶ月の女児** 父母、祖母、弟の中流



サラリーマンの家庭。性質は非常に我ままで強情であり、消極的である。今までに二日だけ年長組の友達と大騒ぎをしたことがある。

七週間位、全然自分でやろうとする意志を見せない、例えば朝来て鞆を掛けるのも、手洗いも二三回促がさなければしない。手を洗い始めると三十分位洗っている。仕事には全然手をつけず、絵も製作も何度誘導しても動かない。

お弁当の時は鞆からお弁当を出そうとしないう。出して食べるばかりに支度しても一向に食べようとしない。お箸を持たせても持ったまままわりを見廻わし、お友達が食べるのを見ている。口まで入れて食べさせて上げればどうにか食べる。

指導法 鞆掛けは友達にも手伝わせたり、早く出来た時には褒める様にした。

お弁当は始め二週間位養って上げた。そのうちお友達が「赤ちゃん見たいでおかしい、おかしい」と云い始めたのでそれを機に「お友達に云われて恥しいからご自分で頂きましようね。先生少し御用して来るわね」と座を立ち、様子を見ていて、少し食べた時激励してお友達にも話した。この様な会話は養いな

がらもしばしば行なわれたが、始めは少しも変らず、食べない日が続いた。組全体の心配となった。ある時はお友達が養って上げた。結局養ってもらう事は食べにくい事を自覚し

一人でポッポ頂くようになった。家庭には毎日の食べ工合を連絡した。鞆からお弁当を出すのも、始めお友達が出していたが遂には自分で出し一人で完全に食べる様になった。その時にはお友達にも話し共に喜んだ。今ではやっと一人で始めから終りまでする様になった。よそ見をしながら頂くので食事の時間は長い。消極的なので遊びに誘う様に努力している。

これと同じ様な例が精華幼稚園にもあった  
四才十ヶ月の男児 三日目に漸く母親から離れたが、事ある毎に弱々しい声で泣き、皆が立って歩き出しても坐ったままで手を引いてやらないと立たない。やはりお弁当の時に彼だけ一口も食べず、お弁当を開けてやっても見ていない間に机の下に落してしまふ。三日目に別室で食べさせようとしたが食べなかつた。

この場合は五月中旬の遠足を機に様子が急転した。遠足のお弁当を喜んで一人で食べ

その日以来、別室でならお弁当も自分で食べる様になった。現在まだ団体遊戯には参加出来ないが、こちらから問えば、簡単な返事は出来る様になった。今後は時間を要しても一人で何でもやらせる事によって劣等感を除き、話し相手の友達を見つけて一対一の親密さから集団の中に加える様になりたい。この様な子どもはくり返しくり返し一つずつ、じっくりとり組んで行く事が大切だと思う。

6 絵画製作をいやがる子供の例(松本幼稚園)(松本幼稚園に二例あったがそのうち一例をあげる)

五才八ヶ月の女児 商業の父母、兄の家庭。性格はよく気がつき、陽気で大胆である。強情なところがある。器用。

兄の在園当時、よくついで来て慣れていた為もあり、入園当初は喜んで通園した。遊戯や唱歌が好きで、態度もよく、皆の前でも喜んで歌う。

はじめての図画の時「かけないかけない」と云って、クレオンを手にしたので「何でもいいのよ。どんな色のクレオンがあるか、紙の上にかいてごらんさい」となだめたと

ころ、困った様な顔をして、赤い丸を一つだけかいた。翌日からは毎日「先生、今日絵かくの？ 遊戯とお唱歌だけやっていけばいいじゃないの」と云い、製作や図画のたびに、おどおどするので、「この前かいたりんご美味しそうだったわ」「よくかけるようになったわ」などと褒めて心の負担を軽くし、自信を持たせる様にした。わつなぎの首飾りをつくってから、やや自信がついて来たらしい。製作の時には、真先にこの子のそばへ行き、自信をもって製作出来るように見守っている。家では母のお手伝いも出来る常識の進んだ子なので、自分のつくるものの上手下手にとらわれて、ものたりないらしい。製作の過程が大切な点を暗示するよう、母親と協力して指導している。

#### 7 乱暴をする子供の例

その一 弟と二人で反抗的な行動をする例

(阿部幼稚園)

四才九ヶ月の男児 父母、弟妹の家庭。父はサラリーマンで、母は商業で多忙な日を送っている。祖母が存命中、長男の彼は盲愛され、食事も彼ののだけ別に作り、彼の事は

一切祖母が面倒を見ていた。どんな我ままでも通してもらえた。その為祖母のいなくなつた現在父母の云う事も聞かない反抗的な我儘な子になってしまった。

入園後四日程は母親なしでは部屋に入れなかった。母親と一緒に友達と一緒に行動はとれなかった。唯、「いやいや」と云って何もせず、反抗的であった。五日目に弟を入園させ、母親は部屋までいらっしゃらなくなつたが、椅子で遊んでいた、ロッカーに入つたきり出て来なかつたり反抗的な別行動をとっていた。帰り道では三才の弟と悪戯をして歩き、友達の母親に迷惑をかけ困らせた。幼稚園の門から仲々入ろうとせず、弟と一緒に困らせた。

**指導法** 母様には送って頂く距離を順次短かくする様依頼し、友達と弟と三人で登園する様、子供にも母親にもお願いした。その約束も長期には続かず友達が三才児だった為か、又母親が送って来る様になってしまった。送って来た時は門で素早く子供を預り、元気に登園した事を褒め、今日一日の楽しい遊びの事を話し合う。帰りは家まで送る様にした。反抗的な二児の手をとり優しく話し、親し

さを増して行った。その為か以前よりは順次良くなりつつある様に思える。

その二 衝動的な行動で友達に迷惑をかける

子供の例(阿部幼稚園)

五才一ヶ月の男児 父母、祖父の四大家族祖父は病氣である。母は一才ヒステリックなやかましい人らしい。子供は落ち着きがなく、自分勝手な行動をしてクラスの雰囲気をかき乱す。その半面思いやりがありやさしい。依頼心が強く、自分で努力してやろうと云うところがうすい。

全然集団生活を知らない。わけがわからないといった様なところが見受けられ、初めの一週間位母から離れるのを一寸いやがる。自分勝手にどんどん行動し、実にハメがはずれていた。衝動的に友達をつきとばしたり、ぶつたりした。友達が静かにお話を聞いたり、遊んでいたりを急に大声を上げてかきまわす。この人の為保育がいつもかき乱されがちであった。

**指導法** 出来るだけ先生が彼と一緒に行動し、一つのこと熱中させる様に仕向けた。悪い点をあまりきつく叱らず、よい点をとりたててほめる様にした。母親にもよく状態を

話し、母からも注意してもらった。

このごろは、することはきちんと出来る様になって来た。友達をわけもなくつきとばしたり、ぶったりしなくなつた。友達からも好かれる様になり、四、五人の友達と積木、砂場、ママ事、さわぎっこ等して遊べる様になって来た。

### 三、なかなか慣れない新入園児の指導について

以上の様に幼稚園生活に自然に入って行けない幼児はこの幼稚園にも相当多勢いて、新学期には先生や母親を困らすものである。

この様な幼児を幼稚園ではどんな方針で取り扱って来たか。阿部、松本、松江、洗足の各幼稚園の報告から見て行こう。

#### 1 家庭と協力すること

入園前に父母の会を開き、幼稚園生活の理解を深めると同時に子供の個々の家庭の生活状態やその子供の習癖、家庭での躾の方針等について予め知っておく。教師と父母が共に歩みながら、子供を無理のない様に新しい生活に導くようにしたい。(松江幼稚園)

家庭の理解と協力が伴わなくては行かず

らに幼児を苦しめるばかりで目的を達する事が出来ないと言ふ事を話し合い、その子の家庭での様子なども細かく話してもらおう。又子供が泣いていても家の方が見えなくなれば案外すぐ泣き止んで遊び出す者が多い事を話して安心させ、親の方が離れられない気持ちでいる様な場合、先生の指導に従ってなるべく早く離れる様に努力してもらおう。連絡帳を利用して先生と家庭と心を合せて幼児を励ます様にする。母親でだめな場合、出来れば母親以外のの人に送ってもらう様に(阿部幼稚園)

#### 2 幼稚園の環境をととのえること

入園式の日にも、なごやかな雰囲気を感じとらせる様に、人形芝居や幻燈によって楽しい一時を経験させて心の緊張をほぐす(松江幼稚園)、登園を楽しむ様に園の環境をととのえる。(松本幼稚園)

#### 3 子供をよく知ること

子供の性質をよく研究し、本人の好きな遊びを早く知ってそれによって早く遊べる様にする。(洗足、阿部幼稚園)

個々の幼児の性格により、附添いを離す時期を考慮する。(松本幼稚園)

三週間たっても馴れない子どもは、先生の

方が焦ってくることもあるが、どこまでも気長くその子どもの友達になる様に心がける。

#### (洗足幼稚園)

#### 4 友達をつくってやること

近所の友達のある時はその子どもと一緒に通園させるようにする。(洗足、阿部幼稚園)交友関係をつくる。(松本幼稚園)

#### 5 安定感を持たせること

親から無理にひき離したり、だましたりせず、適当な機会をとりえてあまりくどく言わない様にして納得させる。(阿部幼稚園)

先生はいつも子供の目のとどるところにいること。(松本、洗足幼稚園)

持物の置場所をはっきりさせる。(松本幼稚園)

#### 稚園)

#### 6 不安な気持を受け入れてやること

教師はいつも子供と共に遊び、子供のその場の感情を受容して理解してやること。即ち不安を持つ子には、その気持を受け入れて、その子の置場になってやれる様な教師であること。(松江幼稚園)

#### 7 親近感を持たせること

家庭環境を詳細に知っておき話をそれ求めて親近感を深める。(洗足幼) 19頁につづく

## 二、保育年数とその取扱い方 について。

○ 二年保育児の場合 四才児と五才児とはその発達段階がちがうのですから、当然保育の具体的なねらいも取扱い方もちがわなければならぬと思います。同じようなやり方を繰返していると「アア、又アレカ」というような嫌悪感と、狎れからくるボスのな動きが、小学校の先生に「幼稚園ズレがしている」というような批評をさせることにもなりましょう。

「当番」を一つ例にとってみると四才児の一学期は当番は何をしなければならぬかという当番と仕事との結びつきを解らせて、椅子のあげおろしの仕方とか、机の持ち方、雑布のかけ方などの要領をのみこませます。

二学期になって当番は仲間のリーダーであるという意識が育てられ、仕事への責任―自分がしないと仲間がこまるという自覚―が加わり、三学期で大体全員がこれを身につけます。

年長組になると仲間のリーダーとして自発的にしなければならぬ仕事を見つけ―欠席者への心遣いや、落しものの始末、他の組へ

の連絡など―当番同志が自分たちの幼稚園での生活を愉快なものにするために相談をしたり、仕事を分担したりして協力的に行動するようにになります。修了前には当番の外に一人のリーダーが出て当番を統率し、こどもたちが自主的に行動する推進力となるのです。

共用の道具の管理などもグループを決めて交互にさせれば責任の所在もはっきりして、もし使い放しで片附けないこどもたちがあればこの管理グループから文句が出て、片附けさせられ、又管理グループに参加すれば、「出し放しでは困る」ということを身にしみて感じます。このように広く、深く指導が発展すれば、「当番」はいつも新鮮で、安易なおっつけ仕事は出来なくなつて所謂、マンネリズムになることはありません。

○ 一年保育児の場合 或る意味では、四、五才児の週程を、一ヶ年の間にするわけです。年令が大きいから、四才児より急テンポで変化しますが、やはり二年児に追いつけないというのが正直のところでしょう。従つて小人数が二年保育児の中にまざることは、しっくりと仲間にとけこめない心配があり、別組にする時は、二年児との対立が考えられ、出来れば能力別―社会的な態度も含めて

―一、二年児を一緒にして二組作り、なるべく個人差からくる組内のひらきを少くして、保育の徹底をはかったらどうかと考えます。

(東京・白金幼稚園)

\* \* \*

(16頁よりつづく) 入園前より地域社会との連絡を緊密にすることによって、幼稚園や先生に親近感を持たせる様にする。例えば運動会や学芸会の行事に入園前の子供を招待して一日楽しく遊ばせる。又先生は時々家庭訪問をして話し合いをする。(松江幼稚園)

先生は新入園児に対しては母か姉の様な気安さで接する様にする。(洗足幼稚園)

### 8 自信を持たせること

独立心や自信を持つ様に励ます。(松本幼稚園)

少しでも進歩した時には、大いに褒めて、連絡帳に書いて、家でも褒めてもらう様にする。(阿部幼稚園)

### 9 健康に留意すること

母親から本人の健康状態を聞いてよく知っておくこと。(洗足幼稚園)

栄養、睡眠を充分にとり、疲労を防ぐ。と同時に、病氣以外は休まない様にして意志の強さを培う。(松本幼稚園)